

2020年度 第2四半期決算説明会 (2020年4月～2020年9月)

開催日：2020年11月20日

(東京都文京区小石川一丁目28番1号)

ジオスター株式会社

目次



1. 2020年度上期決算概要(P3~P13)
2. 2020年度業績予想(P14~P16)
3. 参考資料(P17~P27)

1. 2020年度上期決算



- ・2020年度上期の事業環境 P4
- ・2020年度上期決算の概況 P5
- ・上期連結決算概要 P6
- ・受注高・受注残の推移 P7
- ・連結貸借対照表概要 P8
- ・連結主要経営指標 P9
- ・上期キャッシュフローの概要 P10
- ・設備投資・減価償却の推移 P11
- ・2020年度・剰余金の配当 P12
- ・配当金の推移 P13

2020年度上期の事業環境



- 土木業界について、建設技能労働者及び輸送従事労働者の不足傾向はあるものの、公共投資は堅調に推移
- 先行きについても関連予算の執行による効果が期待される

但し、以下の点は引き続き注視が必要

- 新型コロナウイルス感染症による工事の中断

新型コロナウイルス感染症が当社グループにおける損益に与える影響は、現在のところ無いものと判断している

2020年度上期決算の概況



- ・大型セグメントに留まらず中小セグメント、土木製品等の新規受注に努める。
 - ・生産の積み増し、徹底した原価低減の実行。
-
- ・リニア中央新幹線向けRCセグメント生産開始
2019年度7月より、リニア中央新幹線の第一首都圏トンネル（北品川工区）RCセグメント生産開始
→前年同期比売上高増加
 - ・能力増強を行った競合他社との競争が激化したこと等の影響
→前年同期比減益
 - ・土木製品の新規受注並びに生産の積み増しに努めると共に、徹底した原価低減による収益力向上に努める

上期連結決算概要



当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は増収となったものの、能力増強を行った他社との競争が激化したこと等の影響により、営業利益、経常利益ともに減益となる。
親会社株主に帰属する四半期純利益は、前期の関係会社事業損失がなくなったことにより好転。

(単位:百万円)

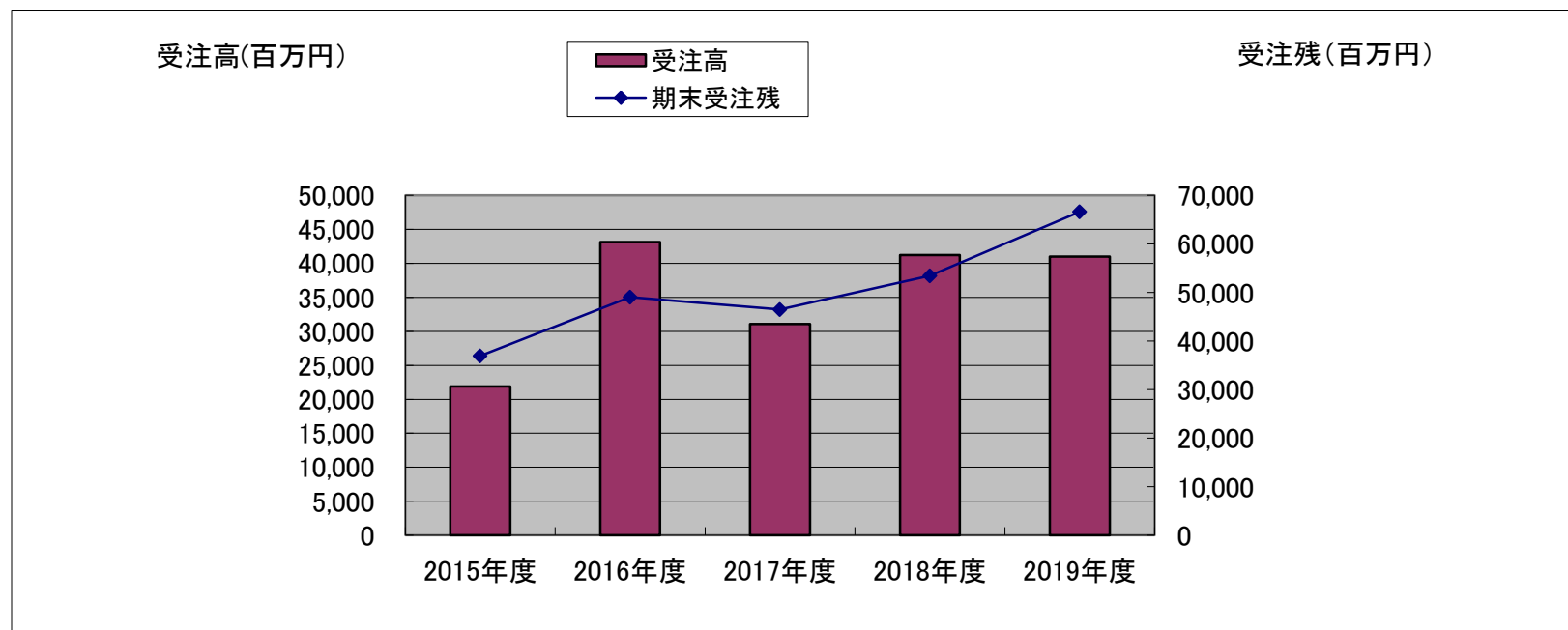
	前第2四半期 累計実績 A	当第2四半期 累計実績 B	前期比 C=B-A	増減率 C/A	2020年度 第2四半期 業績予想公表値	
					2020年 5月15日	2020年 8月6日
売上高	13,423	14,424	1,001	7.5%	13,600	15,100
営業利益	953	570	△ 382	△ 40.1%	100	450
経常利益	947	577	△ 370	△ 39.1%	100	450
特別損益	△ 586	△ 1	584	—	—	—
親会社株主に帰属 する四半期純利益	185	378	193	104.7%	50	300

受注高・受注残の推移



(単位:百万円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
受注高	21,890	43,152	31,097	41,219	41,010
期末受注残	36,926	49,034	46,491	53,444	66,621



連結貸借対照表概要



(単位:百万円)

科 目	前会計 年度末	当第2四 半期末	増減額	科 目	前会計 年度末	当第2四 半期末	増減額
	A	B	B-A		A	B	B-A
現預金同等物	1,766	5,156	3,390	長短借入金	1,250	1,250	—
受手・売掛金	7,086	5,466	△ 1,620	支手・買掛金・未払	6,724	7,055	331
たな卸資産	8,378	8,191	△ 186	その他	2,605	3,170	565
未収入金	2,754	2,838	83				
その他	604	257	△ 346	負債合計	10,579	11,476	896
流動資産合計	20,590	21,911	1,321	自己資本	19,569	19,882	313
有形固定資産	8,276	8,136	△ 139	その他有価証券 評価差額金	188	268	80
投資有価証券他	1,282	1,311	28				
固定資産合計	9,558	9,447	△ 111	純資産合計	19,569	19,882	313
資産合計	30,148	31,358	1,210	負債純資産合計	30,148	31,358	1,210

連結主要経営指標



	前第2四半期	前会計年度	当第2四半期
自己資本当期純利益率 (R O E)	0.9%	2.7%	1.9%
総資産経常利益率 (R O A)	3.0%	4.5%	1.9%
営業利益率	7.1%	5.0%	4.0%
D/E レシオ	0.06倍	0.06倍	0.06倍
自己資本比率	66.5%	64.9%	63.4%
有利子負債残高	1,250百万円	1,250百万円	1,250百万円
期末総資産	29,274百万円	30,148百万円	31,358百万円
期末自己資本	19,478百万円	19,569百万円	19,882百万円

上期キャッシュフローの概要



当第2四半期連結累計期間における現金同等物は前連結会計年度末に比べ33.9億円増加し、51.5億円となる。

主な要因は、売上債権の回収等による営業CF増加からフリーCFは35.5億円の収入となり、配当金等の支払1.6億円により現金同等物の増加33.9億円となる。

(単位:百万円)

	前第2四半期 累計期間 A	当第2四半期 累計期間 B	増減額 B-A
税金等調整前四半期純利益	361	575	214
減価償却費	441	340	△ 100
法人税	△ 621	344	965
その他営業キャッシュフロー	3,464	2,489	△ 974
投資キャッシュフロー	△ 502	△ 197	305
フリーキャッシュフロー	3,143	3,552	409
借入金等 調達・返済	14	-	△ 14
支払配当	△ 453	△ 156	296
その他	△ 10	△ 5	4
現金同等物 増減額	2,694	3,390	696
現金同等物 期首残	2,905	1,766	△ 1,139
現金同等物 期末残	5,599	5,156	△ 443

設備投資・減価償却の推移

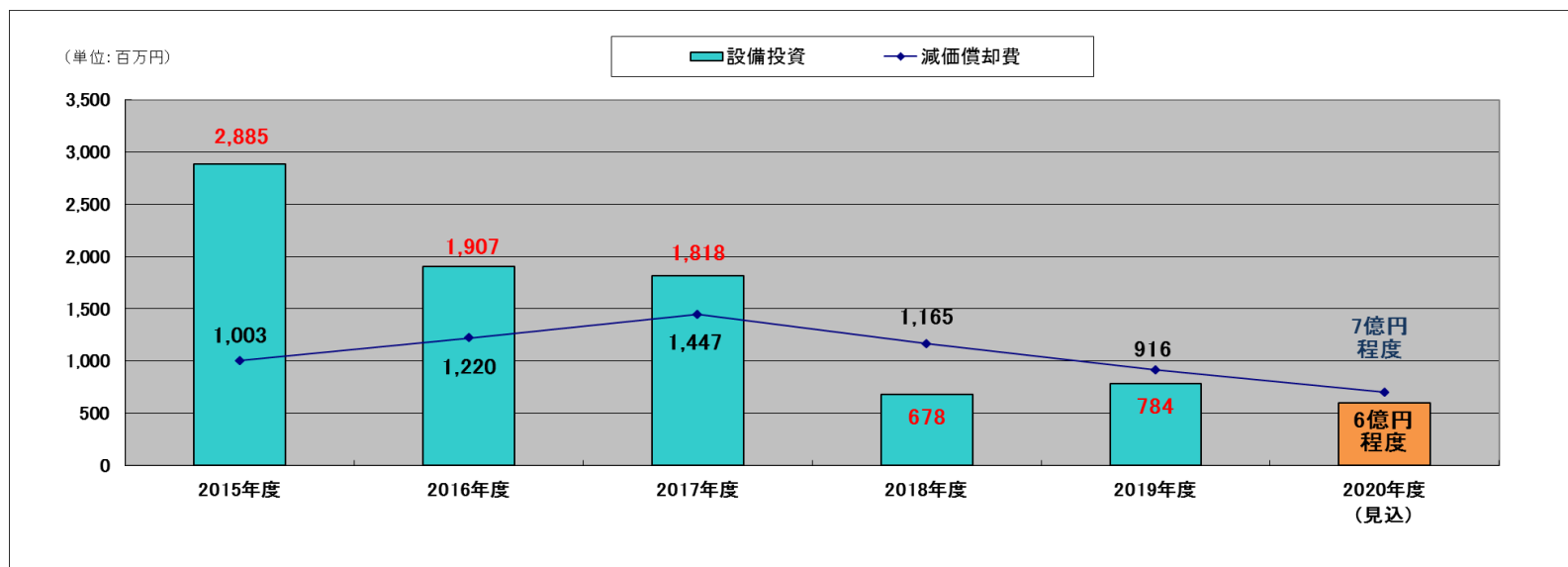


2019年度は、生産設備の維持補修及び型枠購入等の設備投資を実施。
2020年度の設備投資は、新規プロジェクト対応設備及び既存設備の更新が主なものとなる。

(単位:百万円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 (見込)
設備投資	2,885	1,907	1,818	678	784	6億円程度
減価償却費	1,003	1,220	1,447	1,165	916	7億円程度

(注)2020年度より有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法に変更。



2020年度・剰余金の配当



剰余金の配当につきましては、当社の事業特性から売上高が下期に集中する季節要因があり、収益状況から期末配当の1回とすることが財務上も適切であると考えております。

2020年度においても、誠に遺憾ながら当期の中間配当は見送ることと致しました。なお、期末の配当予想については、引き続き未定とさせて頂き、確定次第速やかに公表致します。

【利益配分に関する基本方針】

当社グループは適正な利潤の確保に努め、健全な発展と永続性を目指し、収益状況に対応した適性な配当維持に努力することを基本方針といたします。また内部留保を充実し、企業体質の強化と将来の事業展開に備えたいと考えております。

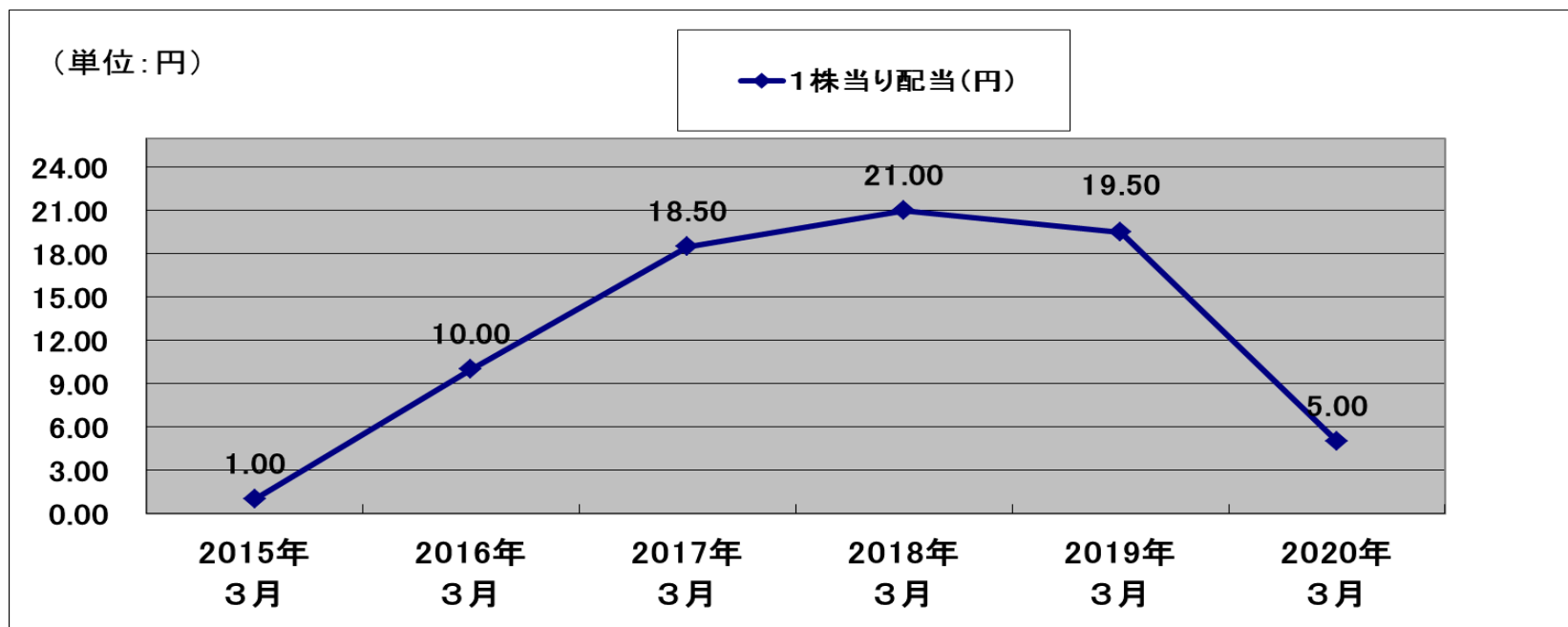
収益状況に対応した適正な配当の指標として

⇒連結配当性向年間30%程度を目安とします。

配当金の推移



決算年月	2015年 3月	2016年 3月	2017年 3月	2018年 3月	2019年 3月	2020年 3月	2021年 3月
1株当り配当(円)	1.00	10.00	18.50	21.00	19.50	5.00	未定
(内中間配当額)	(—)	(—)	(5.00)	(5.00)	(5.00)	(—)	(—)



2. 2020年度業績予想



- ・2020年度の概要 P15
- ・2020年度業績予想 P16

2020年度の概要



【事業環境】

公共投資は堅調に推移しており、先行きについても関連予算の執行による効果が期待され、底堅く推移することが見込まれる。

2020年度は生産量・売上高は増加するものの、競合他社の能力増強による競争激化から、主力であるセグメント製品の市場環境が悪化し、増収減益の見込み。

【対策】

- ・リニア中央新幹線等の大型セグメントに留まらず中小セグメント、土木製品等の受注に努め、生産量の拡大を図る
- ・既存の大型土木・特殊製品の技術提案力を強化し、土木製品の受注確保に努める
- ・防災・減災を中心とした新規分野開拓に向けて、ハイブリッド建材を含めた土木差別化製品の開発、市場開拓強化を図る
- ・調達改革・操業コスト削減・固定費適正化など徹底した原価低減を実行する

2020年度業績予想



公共投資は堅調に推移しているものの、今期は、主力のセグメントの市場環境悪化から、対前年度増収減益の見通しとなる。

親会社株主に帰属する当期純利益は昨年の関係会社事業損失がなくなり7.4億円となる見通し。

(単位:百万円)

	2019年度				2020年度				差異		
	実績				業績予想				前年 上期 対比	2020年 上・下 対比	通期 対比
	上期	下期	通期 A	比率	上期 実績	下期 見通し	通期 B	比率			
	①	②			③	④			③-①	④-③	B-A
売上高	13,423	14,409	27,832	100.0%	14,424	16,476	30,900	100.0%	1,001	2,052	3,068
営業利益	953	450	1,403	5.0%	570	530	1,100	3.6%	△ 382	△ 40	△ 303
経常利益	947	466	1,413	5.1%	577	523	1,100	3.6%	△ 370	△ 54	△ 313
親会社株主に 帰属する 当期純利益	185	343	528	1.9%	378	362	740	2.4%	193	△ 16	212
配当(円)	0.00	5.00	5.00	-	0.00	未定	未定	-	-	-	-

- ・今後実行される主なプロジェクト
- ・ジオスターの地下空間
セグメント製品
土木製品
- ・新製品開発

今後予定される主なプロジェクト



1. リニア中央新幹線

概要: 東京と名古屋を結ぶ高速鉄道

区間: 品川～名古屋

第一首都圏トンネル: 延長約40キロ

- ①北品川工区 : 約10キロ(熊谷JV)
- ②梶ヶ谷工区 : 約12キロ(前田JV)
- ③東百合丘工区 : 約 4キロ(西松JV)
- ④小野路工区 : 約10キロ(安藤・ハザマJV)
- ⑤第二首都圏 : 約 4キロ(未定)

第一中京圏トンネル: 延長約22キロ

- ①坂下東工区 : 約 2キロ(未定)
- ②坂下西工区 : 約10キロ(安藤・ハザマJV)
- ③名城工区 : 約 7キロ(前田JV)
- ④風越山 : 約 3キロ(未定)

完成予定: 2027年

2.北海道新幹線

概要:新函館北斗～札幌(211キロ)区間のうち
手稲山から札幌駅付近までの地下部を通過する
新幹線用シールドトンネル

区間:札幌市手稲区～札幌市中央区

延長:約8キロ

完成予定:2030年

3.枚方トンネル

概要:新名神高速道路
枚方市域の地下部を通過するシールドトンネル

区間:大阪府枚方市～京都府八幡市

トンネル区間:約4.5キロ

完成予定:2023年

4. 鹿児島東西道路

概要: 鹿児島ICと鹿児島中心市街地を結ぶ道路

区間: 田上IC～甲南IC(仮称)

トンネル区間: 下り線1.2キロ

完成予定: 2027年

5. 多摩川トンネル

概要: 国道357号東京湾岸道路

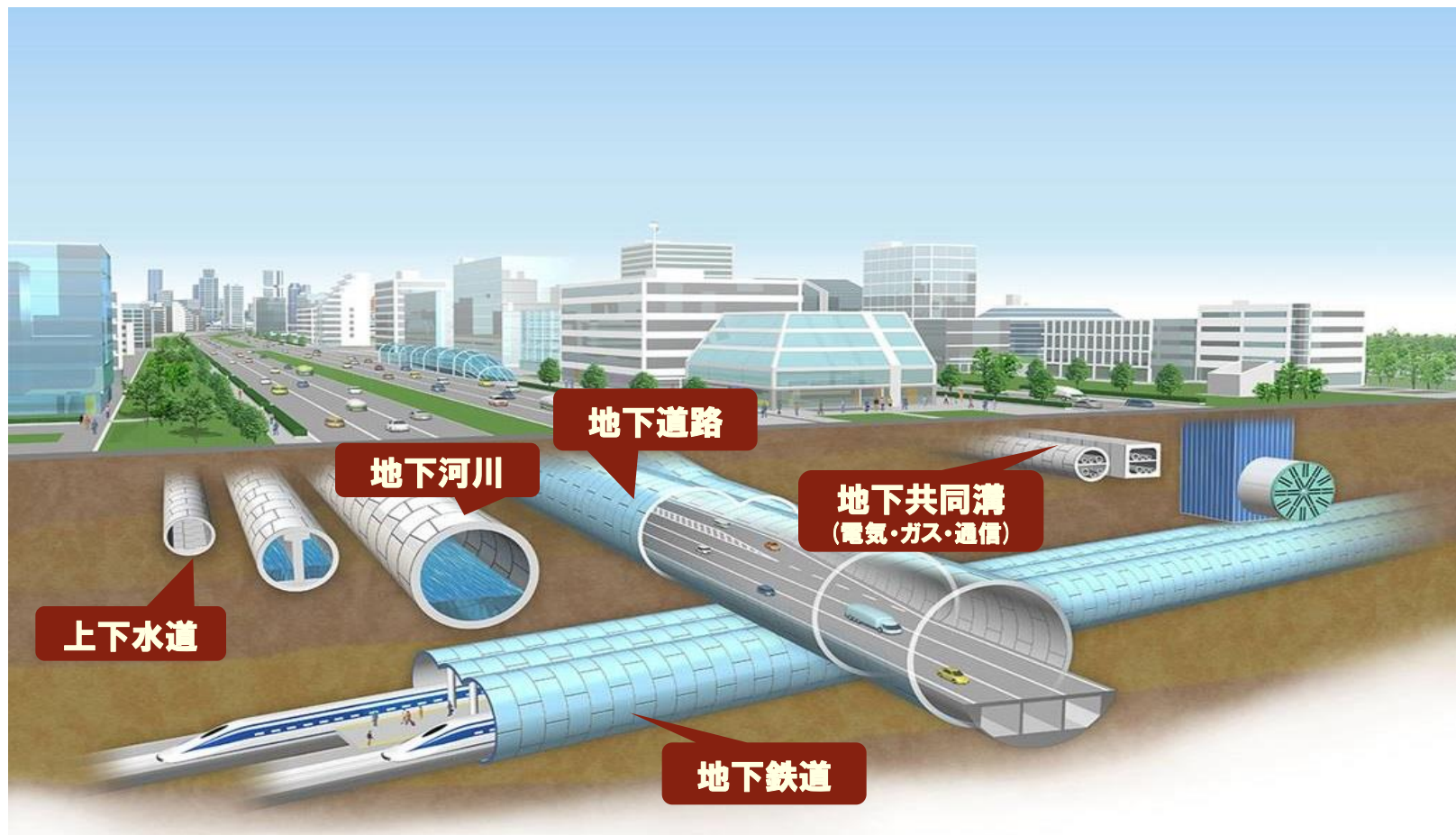
東京都大田区羽田空港と川崎市川崎区浮島を結ぶ
道路用シールドトンネル

区間: 大田区羽田空港～川崎区浮島

延長: 3.4キロ

完成予定: 2024年度

ジオスターの地下空間



セグメント製品



- RCセグメント
- スチールセグメント

- CPセグメント
- HCCPセグメント
- NMセグメント



土木製品



土木製品



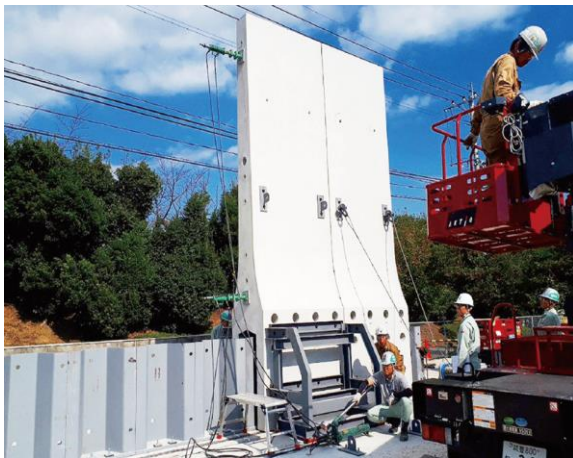
- ボックスカルバート
- アーチカルバート
- L型部材
- 共同溝
- 防潮堤
- モジュラーチ
- ジオウエアボックス
- 矢板
- スラブ



未来を託す新商品



社会インフラを支えるジオウェアメーカーとして様々な分野で新製品を開発してきました。最近では、防災・減災の分野で、狭隘地でも急速施工ができるプレキャストコンクリート防潮堤「フンバライド」を開発しました。他方、建設生産性向上の観点から、型枠支保工を省略できる埋設型枠プレキャストコンクリート頂版「ガッチリフォーム」を世に送り出しました。今日も未来に向けた新商品開発に挑戦しています。



フンバライド(プレキャストコンクリート防潮堤)



ガッチリフォーム(埋設型枠プレキャストコンクリート頂版)
(横河NSエンジニアリング㈱との共同開発)

新製品開発

大断面・多分割カルバート **GEOSTR**

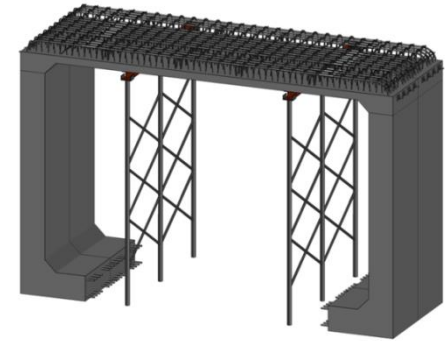
ハーフプレキャスト
ボックスカルバート

施工手順

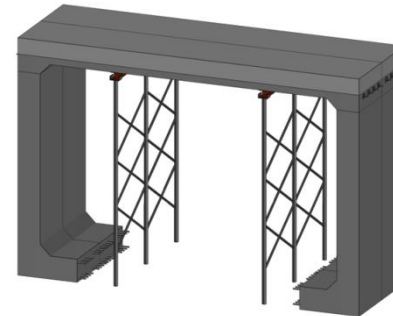
STEP.1



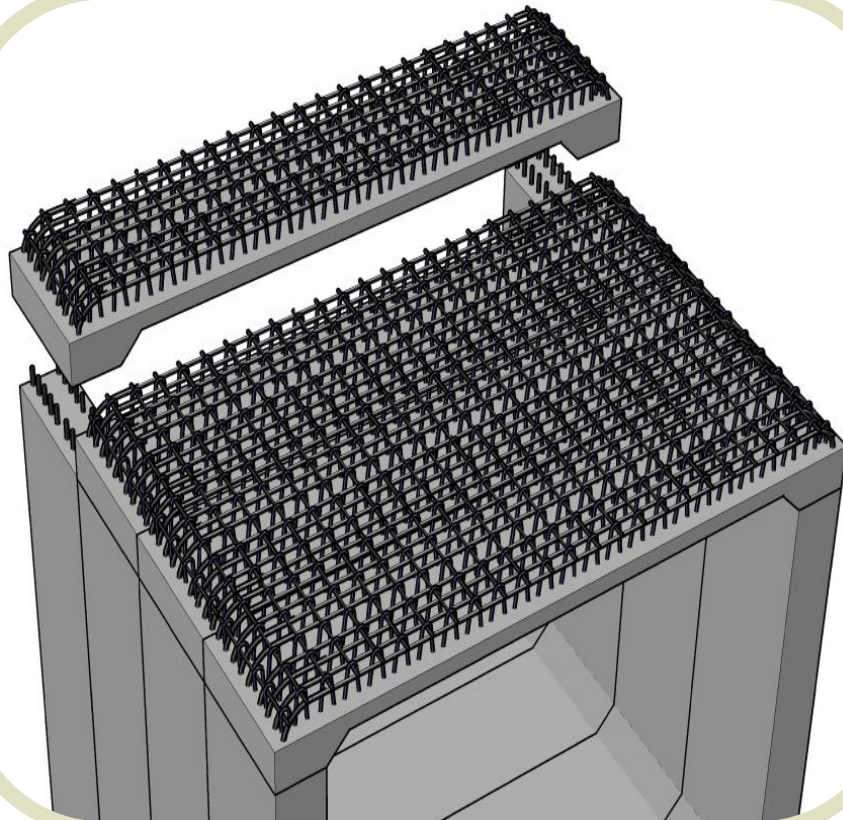
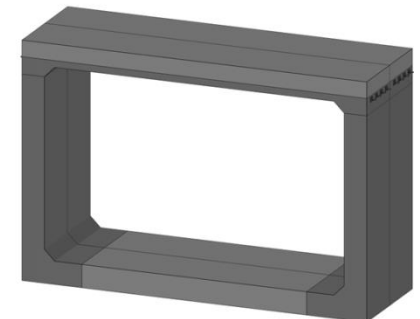
STEP.2



STEP.3

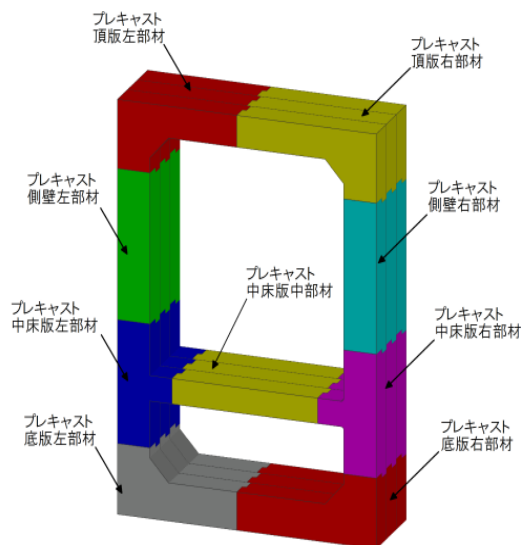


STEP.4



新製品開発

大断面・大深度・高水圧 における多分割カルバート



・大断面・大深度・高水圧における 多分割カルバートとは

当社は道路トンネルをはじめ大断面カルバートの開発を行い多くの納入実績があります。

一方、土被りが大きい大深度では、地下水による高水圧の性能が求められます。

そこで分割部材の接合部の構造を工夫することで、0.4MPa(水深40m相当)の高耐水性のカルバートを開発しました。

今回、狭隘な現場で平面線形および縦断勾配等、複雑な現場条件の中での多分割カルバートの施工実績を左図に紹介します。

近年、建設業界で求められている生産性向上(i-Construction)に貢献できるプレキャスト製品であり、今後の当社の大断面カルバートの拡販に寄与していく工法です。



本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成時点で入手された情報に基づくものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害につきましても、当社は一切責任をおいしません。